

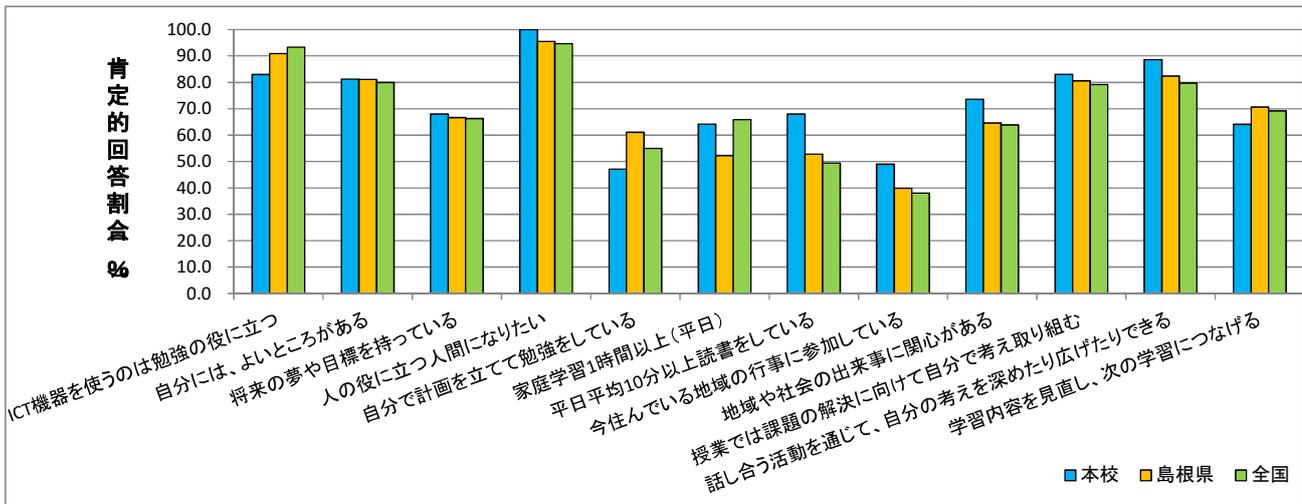
(1)学力調査結果から見られた傾向

	成果と課題(○:成果, ●:課題)	対策(・)
国語	○全国平均より高い項目が多かった。特に思考・判断・表現に関する問いはすべての問いで正答率が県平均、全国平均を超えていた。 ●知識・技能に関する問題、特に語彙に関する問題の正答率が県平均、全国平均よりも低い。	・辞書を利用した意味調べや漢字練習の時間を確保する。読書活動を充実させて様々な言葉や文章に触れる機会を提供する。
数学	○ほとんどの領域、観点で平均を上回った。記述式での解答の正答率が高かった。 ●データの活用のみ平均を下回った。用語(累積度数)の意味を正しく理解していなかったもよう。	・用語を正しく理解し説明できるようにするとともに、用語を使って説明ができるようにする機会を設ける。
英語	○全国平均より低い項目が多いが、読むことや書くことは県の平均正答率より高い項目が多い。授業でまとまった英文を読み取る活動やテーマに沿った英文を書く活動を頻繁に取り入れている成果だと思われる。 ●書くことについては個人差が大きい。	・テーマに沿って英文を書く活動の際に、既習事項を復習したり、理解が不十分なところを個別に指導したりする機会を多く設ける。

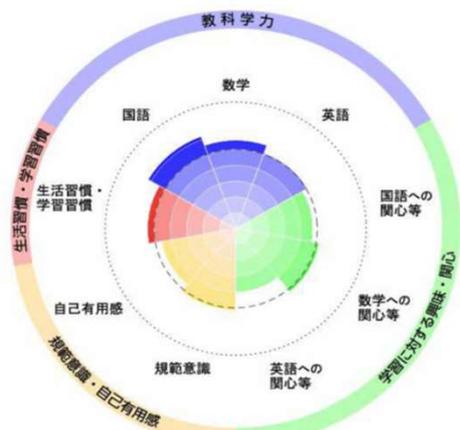
(2)生徒質問紙調査から見られた傾向

	成果と課題(○:成果, ●:課題)	対策(・)
質問紙	○地域の行事に参加したり、地域や社会の出来事に関心があったりする生徒の割合が県や全国より高い。 ○朝読書をきっかけに、平日平均10分以上読書している生徒の割合が多い。 ●自分で計画を立てて勉強している生徒の割合が低い。	・進路の実現に向けて、進路相談を充実させ、その中で個人に応じた、より具体的な学習方法を助言し、主体的な家庭学習になるように支援する。

(3)生徒質問紙調査結果より(学力との相関が指摘されているものや、教育委員会として注目しているものを挙げています。)



(4)学力・学習状況調査結果チャート(破線は全国平均)



(5)その他、今後特に力を入れて取り組むこと

・「すこやか健康生活チャレンジ週間」や定期テスト前の計画表を通して、生活習慣やメディアと関わる時間についての意識を今後も継続して高めていく。
・ICT機器を活用した授業について、より効果的な活用方法を模索し、お互いに授業を見合うことで、教員の授業力向上を目指す。

【受検者数】

53 名

※欠席等により調査によって受検者数が異なる場合は、最少の受検者数をもって表示。